

作成委員(家庭教育支援者)の紹介



かよちゃん(70歳代)

作成会議に参加した感想,または,子育てについて感じていること

楽しく会議に参加できました。自分の時と今の子育ての方法にずいぶん違いがあるけれども、基本はちっとも変わっていないとも感じました。「子は親を見て育つ」。子どものために、ちょっとがんばってみませんか。



そのちゃん(40歳代)

作成会議に参加した感想,または,子育てについて感じていること

会議は笑いが絶えず、楽しく参加できました。子どもには、「実際に目で見て聞いて体で感じる」体験を多くさせたいと思います。先輩方の話も聞くことができ、貴重な経験ができました。



やっちゃん(50歳代)

作成会議に参加した感想,または,子育てについて感じていること

子どものことを一番に考え、愛情いっぱい育てたら子どもはまっすぐ成長していくものだと思います。子育て中のお父さん、お母さん方ががんばってもらいたいと思います。



トミさん(70歳代)

作成会議に参加した感想,または,子育てについて感じていること

子育てについてジェネレーションギャップを常に感じています。でも、子育ての根本は同じだと心に思いながら、家庭教育支援活動に関わっています。



トンコさん(70歳代)

作成会議に参加した感想,または,子育てについて感じていること

自分の子どもであっても自分のものではない、一人の人間の人生に関わっていることの大切さをしっかりと感じ、向き合ったり、横に並んだりして常に心を通じ合わせ話し合うことや、親として前向きな行動が必要だと思えます。

食育コラム 付け焼き刃では身に付かない“食事マナー”

食事のマナーが身に付いていないと恥ずかしい・・・

外出に行った時、隣で食事をしている人のマナーが気になることってありますよね。

内閣府が平成21年に行った「食事に関する習慣と規範意識に関する調査」結果によると、8～9割の人が、

- 口を開けて音を立てること
- 食器類で音を立てること
- 食事中に携帯を操作すること
- 食べ物をこぼすこと

に不快感を持つそうです。

食事のマナーが良い人は、「礼儀正しい」、「上品」、「常識的」、「知的」など、とても良いイメージになりますが、食事のマナーは、一朝一夕では身に付かないものです。

“食事マナー”は毎日の「繰り返し」

食事のマナーを身に付けるには、子どもの頃から、周りの大人が手本となり、繰り返し教えることが重要です。

食事マナーを学ぶために最も適した場所は、「家族との食卓」です。幼少期に、家族団らんの食卓で、「肘をつかない」、「茶碗は持って食べる」など家族に教えられた食事のマナーは自然と身に付くものです。家族で食卓を囲む機会を持つことが大切です。

学校でも、子どもたちが食事マナーに関心を持ち、実践できるよう、毎日の給食の場や各教科で繰り返し指導しています。

子どもたちが、人に迷惑をかけず、思いやりの心を持って、食事ができるよう、家庭と学校が協力して、正しい食事マナーを伝えていきましょう。

あなたは、食事マナーに自信がありますか。



【学校で行っている食事マナー指導】

・毎日の給食の時間に、学級担任と学校栄養士(全校配置)等が「箸の持ち方」や「食器の並べ方」を教えています。

・重点指導週間(月間)を定め、「姿勢」、「あいさつ」などの食事マナーをチェック表を使って自己点検する、「豆つかみゲーム」で正しい箸の持ち方を練習する、食器の並べ方などのマナーをクイズで学ぶなど、楽しくてわかりやすい指導を工夫しています。

※「正しい箸の持ち方」指導の様子※

